

サステナブルな社会の創造とベンチャービジネスの成長の実現を目指す サステナビリティ特化型ベンチャーコミュニティ

■SDGs 時代をリードするベンチャー6社のノウハウとネットワークのシェアリングでイノベーションを加速

「City Lab Ventures」は、「サステナビリティ特化型ベンチャー6社」を発起人とするベンチャーコミュニティです。2019年4月19日から「シティラボ東京」を拠点として、サステナブルな社会の創造とビジネスの成長の実現を目的として活動を展開しています。

City Lab Ventures 発起人企業・活動支援企業



■「City Lab Ventures」設立の背景

SDGsの国連採択に象徴される通り、サステナブルな社会の実現はグローバルレベルでの最優先課題という認識がビジネスシーンにおいても広まる中、サステナビリティへの寄与を事業の中核として活躍するベンチャー企業が登場し、社会からの期待が高まっています。他方でベンチャー企業は資金力、情報力等の経営資源が必ずしも充足している状況にはなく、またサステナビリティ特化型ベンチャーは数が少ないこともあり、独自の経営課題やその解決方法に関するナレッジ共有があまりなされてきませんでした。

■「City Lab Ventures」の発足

「City Lab Ventures」は、そのようなベンチャー企業が集まり、知見の共有やコラボレーションを図り、個々では得られない集団としての力（コレクティブインパクト）を効果的に活用することを目的としたサステナビリティ特化型ベンチャーコミュニティです。

発起人は、サステナビリティへの貢献を事業の中核とする企業として現在注目されている、株式会社TBM、株式会社ウィファブリック、株式会社ユグレナ、株式会社ボーダレス・ジャパン、株式会社DG TAKANO、自然電力株式会社の6社です。シティラボ東京の運営企画者である東京建物株式会社、運営受託者である一般社団法人アーバンリストが活動支援を行います。

また、この趣旨に賛同いただける企業を広く募り、コミュニティの成長を通じて、持続可能な社会づくりにインパクトを与える活動を展開していきます。

■「City Lab Ventures」の活動

City Lab Venturesが行うことは、大きく分けて2つあります。1つ目は、イノベーター同士の繋がりを作ることです。サステナビリティ特化型のビジネスだからこそ感じる課題感やその解決策、業界での優位性の出し方、連携の方法など、さまざまなナレッジが各社には蓄積しています。そうしたナレッジがサステナビリティ領域に取り組むベンチャー企業に共有されることで、サステナブルな社会づくりを加速させられるはずです。

もう一つの視点は、サステナビリティ特化型ベンチャーの集まりと、それを取り巻く様々なステークホルダーとのつながりを形成・強化することです。サステナビリティ特化型のベンチャー企業が集まることで、そうしたソリューションプロバイダーとの接点を探している様々なプレーヤーが、多様なベンチャー企業と一気に出会えるようになります。ベンチャー企業にとっても、これまで個社ごとのアプローチでは出会えなかったプレーヤーとのつながりを作ることができ、事業展開に必要なリソースの確保がしやすくなるはずです。

当面は、シティラボ東京を主な拠点として、ベンチャー企業の共通課題でもある人材採用や資金調達に関する共同イベント、自治体や金融機関などとの対話イベントを行います。さらには、シティラボ東京に集う大企業・金融機関・ベンチャーキャピタル・行政・大学・研究機関など様々なプレーヤーとのコラボレーションによる事業創出プログラムなどを進めていきます。

具体的な活動は、下記URLにて発信していきます。

<https://citylabtokyo.jp/2019/04/19/citylabventures/>

■「City Lab Ventures」とシティラボ東京の関係について



「City Lab Ventures」と「City Lab TOKYO」の関係概念図

シティラボ東京の所在する東京駅周辺の八重洲・日本橋・京橋エリアは、国内最大の大手企業集積地であり日本の経済エンジンとしての役割を担っています。シティラボ東京もこのエリアの魅力づくりの取り組みの一つとして、多様な領域のステークホルダーが「サステナビリティ」をテーマとして集い、事業革新を生み出すオープンイノベーション拠点です。

「City Lab Ventures」は、この拠点の強みである立地や大手企業集積を活かして、ベンチャー企業と様々なステークホルダーの協業を促進するきっかけづくりとしても位置付けられます。この取組みの輪が広がり、サステナブルな社会の実現に向けたイノベーションが次々と生まれることを期待しています。

■「City Lab Ventures」発起人企業について

株式会社 TBM <https://tb-m.com/>

- 代表取締役 CEO：山崎 敦義
- 事業内容：石灰石を主原料とし、水や木、石油等の地球資源の使用量を抑えて紙やプラスチックの代替となる新素材「LIMEX（ライメックス）」及びLIMEX 製品の開発・製造・販売。2016 年、Plug and Play「ソーシャルインパクトアワード」受賞/2017 年、第7 回日米イノベーションアワード「イノベーション・ショーケース」受賞。
- 神奈川県や福井県鯖江市をはじめとする自治体や慶應義塾大学などの研究機関、各事業パートナーとの連携でLIMEX の循環モデルを構築し、国内外での持続可能な循環型イノベーションを目指す。



株式会社ウィファブリック <https://www.wefabrik.jp/company>

- 代表取締役社長：福屋 剛
- 事業内容：アパレル在庫の企業間マッチングプラットフォーム「スマセル」の開発・運営。企業間で在庫を売買し、世界で毎年 200 億枚以上廃棄されるアパレルの不動産在庫問題を解消する。
- 平成 30 年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰/2018 年日経優秀製品・サービス賞日経産業新聞賞受賞。



株式会社ユーグレナ <https://euglena.jp/>

- 代表取締役社長：出雲 充
- 事業内容：2005 年に世界で初めて微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナを活用した機能性食品、化粧品等の開発・販売を行うとともに、バイオ燃料の生産に向けた研究を行っています。2012 年 12 月東証マザーズに上場。2014 年 12 月東証 1 部に市場変更。経営理念は「人と地球を健康にする」。



株式会社ボーダレス・ジャパン <https://www.borderless-japan.com/>

- 代表取締役社長：田口 一成
- 事業内容：2007 年、貧困、差別・偏見、環境問題等の社会問題を解決する「ソーシャルビジネス」しかやらない会社として創業。以来、国内・海外を問わず、社会問題を解決したいという強い志を持つ社会起業家を生み出し、互いの資金・人材・事業ノウハウを共有し、社会インパクトの最速最大化を推し進める「社会起業家のプラットフォーム」として、次々と事業を創出し続けている。2019 年 3 月時点で、8 カ国 10 拠点 23 事業を運営している。



株式会社 DG TAKANO <http://www.dgtakano.co.jp/>

- 代表取締役：高野 雅彰
- 事業内容：世界中から研究者やエンジニアを集めてデザイン思考を用いて独自の製品をゼロから作り出すデザイン会社。最初のプロダクトは「世界を節水する」をスローガンにした世界最高の節水ノズル。洗浄力を高めながら最大 95%の節水を実現。
- 『超モノづくり部品大賞』『働きたいベンチャー企業ランキング 1 位』『JAPAN VENTURE AWARDS』など数々の賞を受賞。



自然電力株式会社 <http://www.shizenenergy.net/>

- 代表取締役：磯野 謙、川戸 健司、長谷川 雅也
- 事業内容：太陽光・風力・小水力等の自然エネルギー発電所の発電事業（IPP）、事業開発・資金調達、アセットマネジメント、個人・法人向け電力小売事業等
- 2011 年創業時より「エネルギーから世界を変える」をビジョンに掲げ、自然エネルギー発電所の設置から販売にかかわる全てのサービスを提供している。実質自然エネルギー100%のでんき「SE100」の提供のほか、企業の環境（エネルギー）対策も手掛ける。

